

塩尻市都市計画マスタープラン

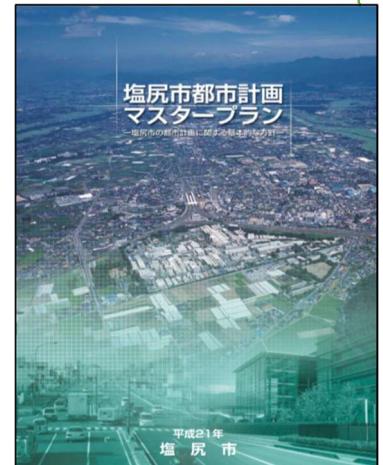
塩尻市では令和6年度中の公表を目指して
「塩尻市都市計画マスタープラン」の見直しを進めています

全体構想の概要

1

「都市計画」と「都市計画マスタープラン」とは

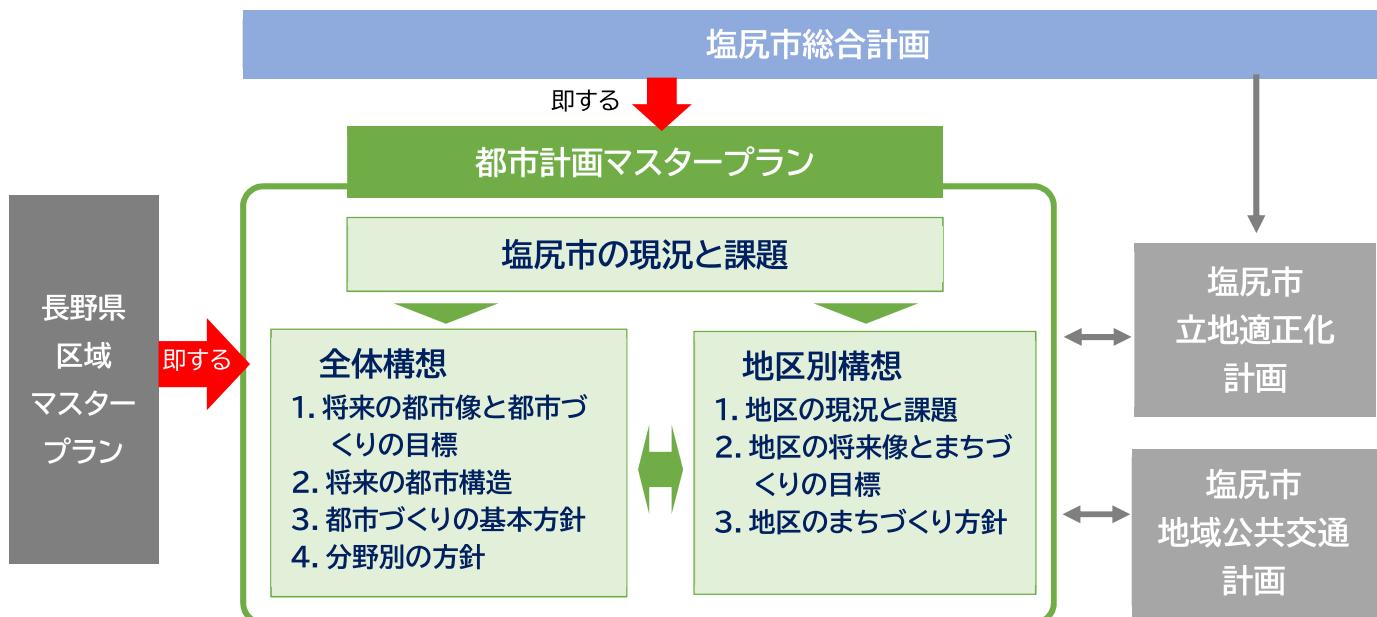
- 「都市計画」とは
→ 土地の使い方のルール、道路や公園等の配置、計画的な市街地整備事業を定めるものです
- 「都市計画マスタープラン」とは
→ 市町村が、市民の意見を反映して、将来のまちのあるべき姿やまちづくりの基本的方向性をわかりやすく示すもの
→ おおむね 20 年後の都市の姿を展望し、個別の施策内容はおおむね 10 年後を目標として定めます



2

「都市計画マスタープラン」の構成

- 都市全体を対象とする「**全体構想**」、市内 10 地区毎に定める「**地区別構想**」によって構成され、塩尻市総合計画等に即して、市の都市計画の基本方針を定めます



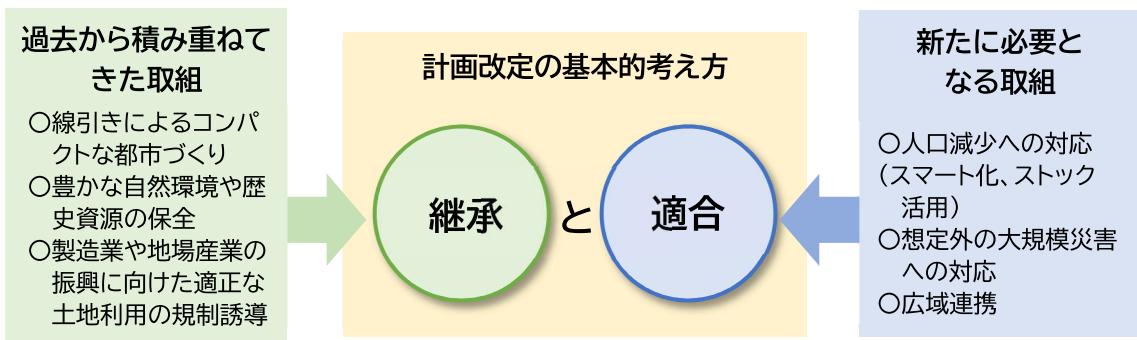
塩尻市都市計画マスタープラン

全体構想の概要

3

今回の改定の視点

- 過去から積み上げてきた取り組みを**継承**しつつ、新たな時代に求められる都市像へと**適合**させることを基本に計画を改定します



4

タウンミーティングで確認したい事項

- 今回のタウンミーティングでは、地域の特性を踏まえたまちづくりの目標や方針を定める「地区別構想」の策定にあたって、地域の皆さんとの声を広く聞くものです
- 地区別構想では、最終的には地区が有する強み・弱みを整理した上で地区の抱える課題を抽出し、その課題を踏まえた地区の目標やまちづくりの方針を定めたいと考えています
- 数値的な事実等から、市で地区毎の強み・弱み、地区の目標等を暫定的に設定しますので、そこに対して皆さんを感じていることを述べていただき、案を練磨したいと考えています

1

地区の歴史と成り立ち



- 奈良井川左岸の平坦部に広がる本洗馬は、中世に城下町として形成され、農村でありながら屋敷割りや道路が整然と形成
- 江戸時代には、高遠藩の飛び地として独自の洗馬文化を育て、地方文化の拠点となったほか、多くの文人墨客が訪れ住み、地元の人々と親交を深めることで多くの影響を与える
- 中山道が設定された時、中山道の洗馬宿から分岐して郷原宿・村井宿・松本を経て善光寺に至る北国脇街道(善光寺街道)が設定
- 広い畠地では早くから養蚕が行われ、奈良井川・小曾部川の流れを利用して製糸業が発達、明治時代の製糸工場は多くが個人経営であったが大正時代に経営規模が拡大され会社組織へ発展
- 戦後、進駐軍の野菜供給地として指定され、準高冷地に位置する岩垂原が高原野菜的一大生産地となる
- 平成 8 年に松本平広域公園(信州スカイパーク)が開園
- 近年、地区内の古民家を宿泊施設やカフェ等に再生する取組がみられ、古民家再生と併せた移住・定住も拡大

2

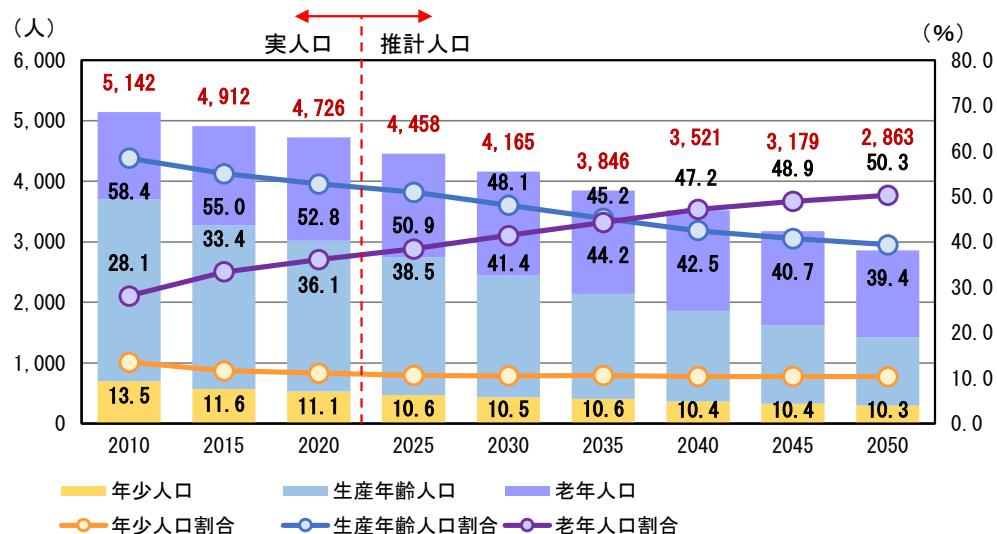
地区の概要



- 地区面積約 4,397ha
- 地区の全域が都市計画区域外

- 地区人口は 4,726 人(R2 年)、過去 10 年間で 416 人の減少
- 高齢化率(65 歳以上人口割合)は市平均を上回る約 36.1%

●人口の推移



洗馬地区

地区別構想の骨子

3

地区の課題とまちづくりの目標



地区の強み



広域から利用者が訪れる松本平
広域公園への近接性

日本アルプスサラダ街道やアル
プスグリーン道路沿いから眺望
できる特徴的な田園景観

本洗馬歴史の里
資料館や釜井庵
など歴史的資源
を有する

小曾部川流域の
うるおいある自然環境や良好な
田園景観

地区の弱み



地区内の幹線道
路にみられる狭
あい部

遊休農地、荒廃
農地の増加

公共交通の選択
肢の少なさ

点在する既存集
落における店舗等の生活に必要
な施設の少なさ

小曾部川流域の
集落内に分布する
洪水や土砂災害のハザードエリ
ア

「強み」
を生かす

「弱み」
を克服する

地区の課題

集落内外を連絡する
公共交通の機能強化
や狭あい道路の整備
が必要

農村集落の生活利便
性確保等による農業
の担い手確保が必要

災害リスクを軽減する
ための自然環境の保
全・再生が必要

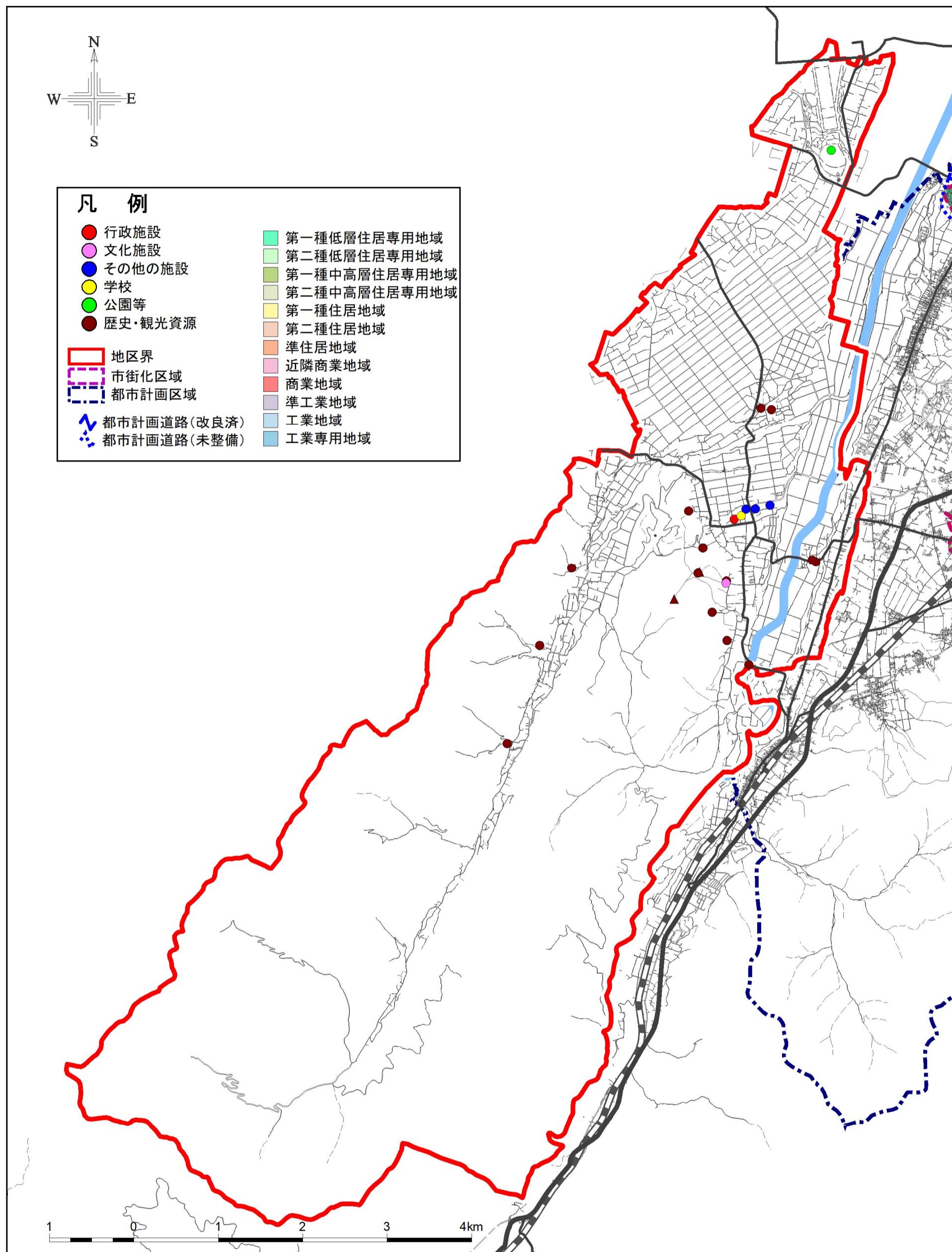
まちづくりの目標

公共交通機能の強
化、店舗等の生活に
必要な施設の維持に
より住み続けられる
まちづくりを進める

歴史あふれる集落環
境と優良農地が調和
したまちづくりを進
める

豊かな自然環境を活
用しながら災害に対
応できるまちづくり
を進める

●地区の主な施設・資源の分布



●地区の災害ハザード

